



ご ぼ う や ま い せ き

午王山遺跡だより

Vol.10

2025.12.12

日本大学の学生によるワークショップが開催されました！

去る令和7年4月19日（土）に、日本大学学生の皆様を中心とした「ごぼうやま×デジタルワークショップ実行委員会」（協力：日本大学生産工学部創生デザイン学科ファブトラ活用委員会）が中心となり、和光市広沢複合施設「わぴあ」でワークショップが開催されました。

ワークショップは小学生を対象としたものとして企画され、当日は多くの方にご参加いただくことができました。

こどもたちは午王山遺跡を模した砂場を使って発掘調査の疑似体験をしたり、オリジナルしおりづくりに取り組みだりと、楽しそうな様子でした。また、3Dプリンター等を搭載した「ファブリケーショントラック」や、実際に3Dプリンターで土器をつくったり、デジタルミシンやレーザーカッターの実演があったりと、工夫をこらした企画によって、参加されたみなさんは興味津々の様子でした。

ワークショップで使用された模型は和光市に寄付をしていただきましたので、今後様々な場面で活用させていただく予定です。

事業を企画いただいた、ごぼうやま×デジタルワークショップ実行委員会の皆様、日本大学の皆様、関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。



ファブリケーショントラック（日本大学所有）
デジタル工作の機材が積載されている。



砂場に埋められた土器を発掘する体験の様子
午王山遺跡の砂場模型は日本大学学生の手づくり



オリジナルのしおりづくりの様子



実演された3Dプリンター（日本大学所有）



3Dプリンターで作られた
土器などのミニチュア



デジタルミシン（日本大学所有）

【コラム】午王山遺跡のもう一つの顔・・・新羅王居跡！？

午王山遺跡は弥生時代の遺跡として国の史跡に指定されましたが、弥生時代の遺跡ということ以外にもいろいろな特徴があります。その一つが、午王山が「新羅王居跡だった」という伝承が残る地として知られているというものです。

江戸時代に幕府が編さんした地誌『新編武蔵風土記稿』の新倉村の項目には、以下のような記述があります。

古蹟

新羅王居跡 牛房山ノ上ニワヅカノ平地アリ、昔シ新羅ノ王子京ヨリ下向ノ頃、コニ居住セント云、和名鈔ニ載スル当郡ノ郷名志木ト云ヘルハ此辺ノ事ニテ志楽木ノ中略ナルベシト、此村ニスメル好事ノ者イヘリ、当村ニ山田、上原、大熊ナド氏トセル農民アリ、是ハ旧キ家ナルヨシ、彼等ガ祖先ハ京都ヨリ新羅王ニ從ヒ来リシナリト云伝フ、サレバ此山ノ名モ元此王子居跡ヨリ起リタル事ナレバ、御房山ナドカクベキヲ、イツノ頃ヨリカ牛房ノ字ニカヘシナラント、是モ村老ノ説ナリ、続紀持統紀元年四月甲午朔癸卯、筑紫太宰、献投化新羅僧尼、及百姓男女二十三人、居于武蔵国、賦田受稟使安生業ト云ヒ、又同ジ紀ニ、韓奈末許満等十二人ヲ、コノ国ニヲカレシコトアレバ、コノ居蹟ト云ハモシクハコレラノ人ヲリシニヤ、サレド外ニ拠モナケレバ、詳ナルヲシラズ

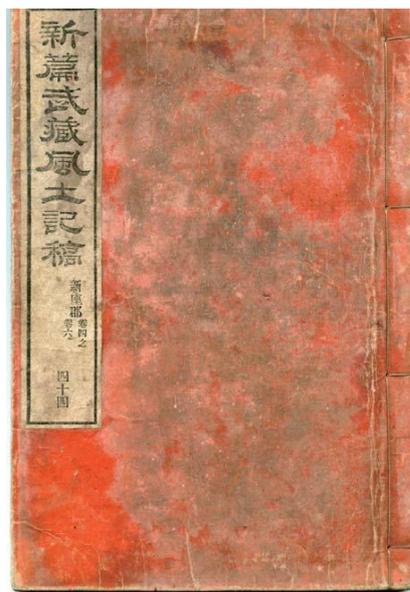
この『新編武蔵風土記稿』の記述では、牛房山（午王山）がかつて新羅の王子が居住した場であったという話を伝えています。新羅というのは、古代の朝鮮半島に実在した国の名前です。

午王山遺跡が新羅王居跡であったとされる伝承・伝説は、歴史研究者・愛好者から興味関心が寄せられています。しかし、残念ながらこれまでの発掘調査では、「新羅王居跡」と思われるような証拠は見つかっておりません。

では、どうしてこのような伝説・伝承が残ったのでしょうか。こうした疑問は、午王山を知る上では重要な問いかけです。なぜ午王山なのか、なぜ新羅という異国の王の居跡と考えられたのか・・・疑問は尽きません。

まだまだわからないことが多いですが、弥生時代には環濠集落を形成した午王山は、江戸時代の人々から見ても、何か特別な山として認識されていたのではないのでしょうか。

弥生時代の多重環濠集落として知られる午王山遺跡のもう一つの顔として、ぜひ今後もお注目ください。



『新編武蔵風土記稿』新座郡
※写真は明治17年出版のもの

午王山遺跡が大学の入試問題に取り上げられました！

十文字学園女子大学（埼玉県新座市）の令和7年度入学試験問題（給付特待チャレンジ入試—日本史）で、午王山遺跡が取り上げられました。

午王山遺跡の知名度が少しずつ上がってきていることを実感いたします。今後も午王山遺跡の周知に力を入れていきます。

編集：和光市教育委員会生涯学習課文化財保護担当
電話：048-424-9119（直通） E-mail：h0300@city.wako.lg.jp
発行：令和7年12月12日